

令和 5 年度 民芸館・本多記念民芸の森 実績報告

1 入館者・施設利用者数

【民芸館】

令和 5 年度

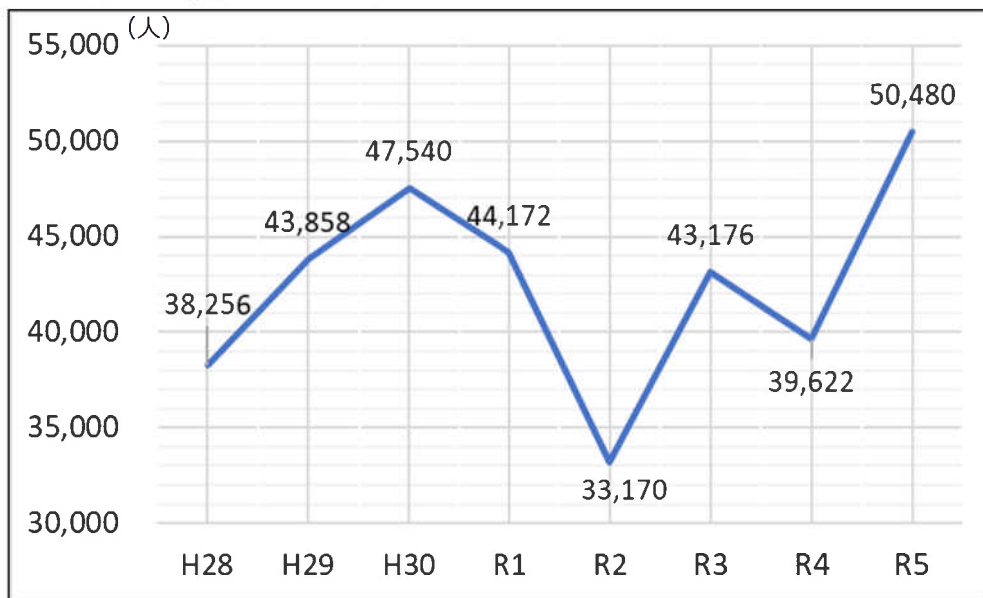
展覧会等総施設利用者数：50,480 人

茶室及び講座受講者数：6,508 人

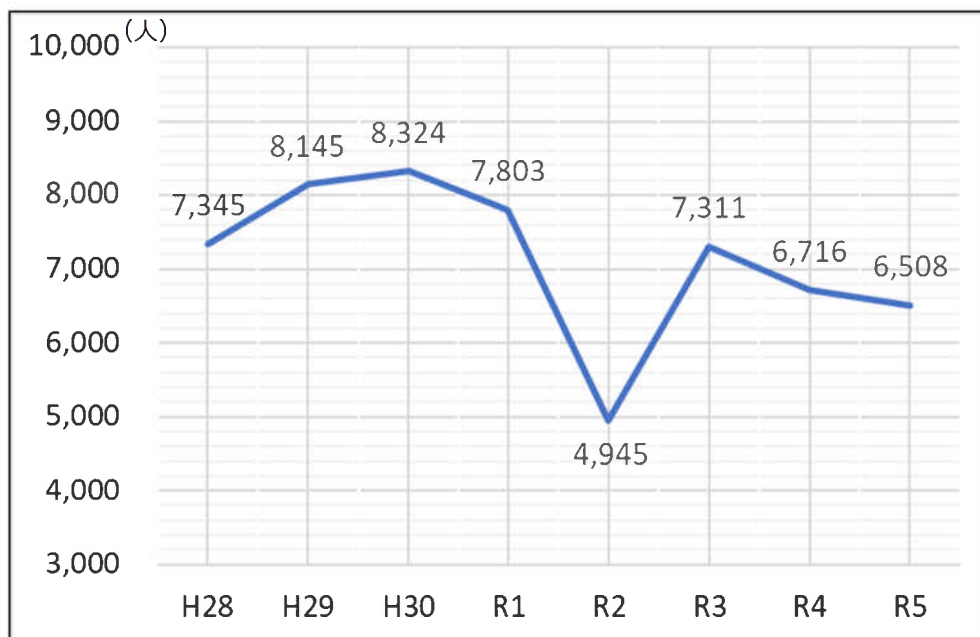
施設総利用者数：56,988 人

過去 8 年間の推移

(1) 展覧会等施設利用者数



(2) 茶室及び講座受講者数



【本多記念民芸の森】

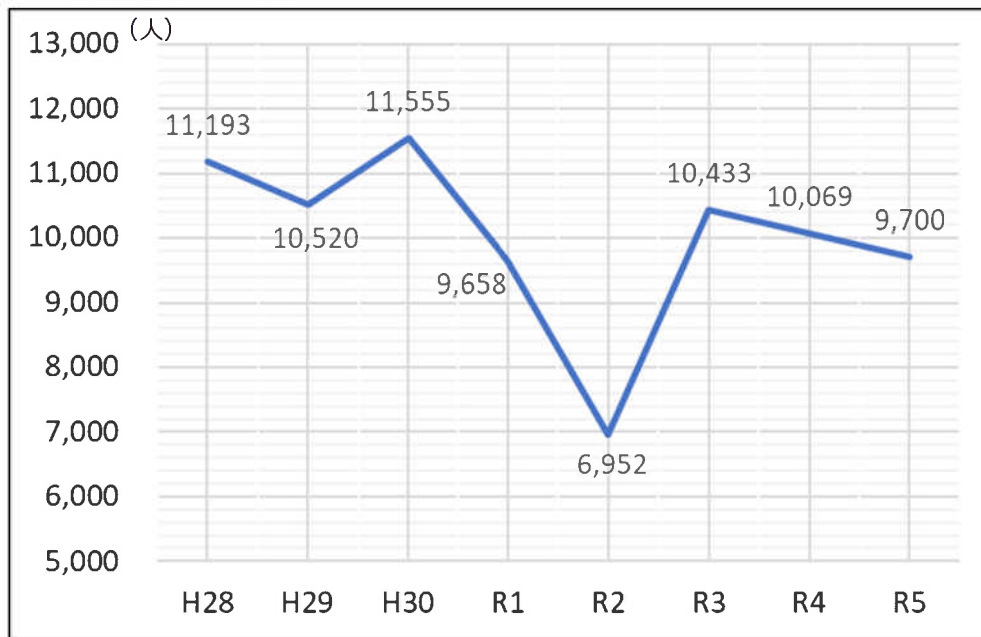
令和 5 年度

施設内建物等利用者数：9,700 人

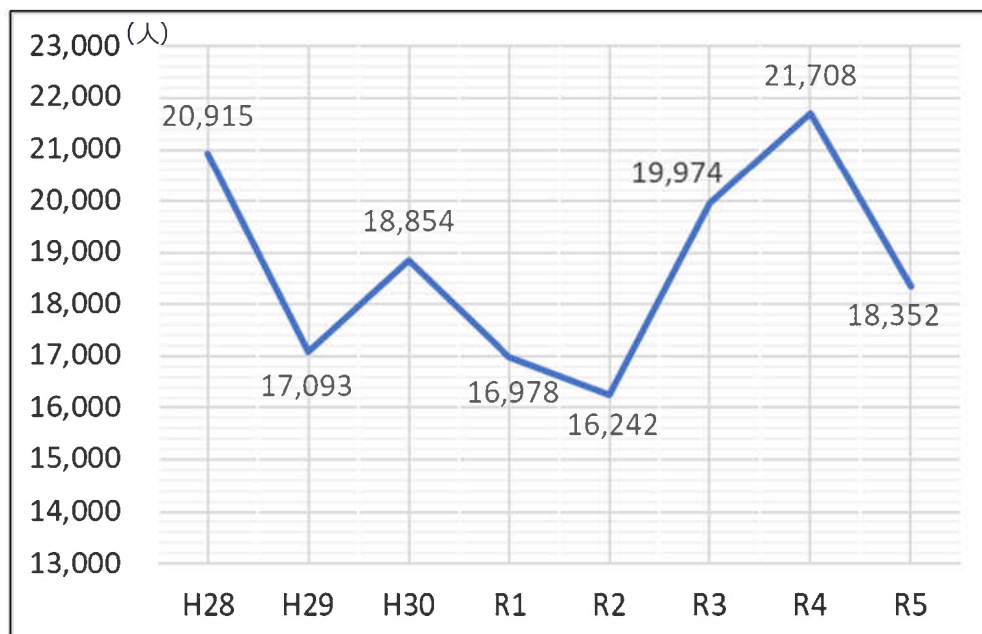
施設敷地入場者数：18,352 人

過去 8 年間の推移

(1) 建物等利用者数



(2) 施設敷地入場者数



2 展覧会事業

【民芸館】

第 36 回特別展

「全国の郷土人形―祈り・願い・美しさのかたち」展

令和 5 年 1 月 21 日（土）～令和 5 年 5 月 7 日（日）

92 日間（会場：第 1、第 2 民芸館）

観覧者数 3,359 人（1 日平均 37 人）

【展示概要】

郷土人形は、江戸時代中頃より節句物、縁起物として日本各地で制作されてきた。江戸時代初期に権力階級や裕福な人々の間で流行した布の着物をまとった雛人形（衣裳人形）や御所人形といった高価な人形に代わり、

庶民の間で身近な紙、木、土といった材料で作られるようになったのが郷土人形の始まりである。人々の暮らしの中の祈りや願い、憧れが込められた郷土人形は、何れも丁寧に作られ、愛しまれてきた。そして特に地方色を強く現わした郷土人形の中に、期せずして高度な美を伴う人形が数多く生み出されたという事実は、驚くべきことといえるであろう。

本展では、京都・伏見人形をはじめ、宮城・堤人形、山形・相良人形、福島・三春人形、埼玉・鴻巣人形といった各地の特徴的な作品を紹介するとともに、愛知県内の代表的な土人形の産地である名古屋や三河、犬山などの作品など、素朴な美しさをたたえた全国の郷土人形を紹介した。



観覧料：一般 300 円／高大生 200 円 中学生以下と 70 歳以上、豊田市内在住・在学の高校生、障がい者は無料(要証明)

主 催：豊田市・豊田市民芸館

共 催：中日新聞社

出品協力：ギャラリー顕美子、ケンジタキギャラリー

出品点数：約 2,000 点

印刷物：ポスター B2 版カラー：900 部チラシ A4 版両面カラー 25,000 部
リーフレット A3 2 つ折り A4 仕上げ 4 C×4 C 5,000 部
入場券 9,000 部

販売品：郷土人形関連商品を委託販売

関連企画：

- ・記念講演会「美しき郷土人形」

日 時：3 月 11 日（土）午後 2 時～3 時半

講 師：林 直輝氏（日本人形玩具学会理事、日本人形文化研究所所長）

会 場：第 3 民芸館 聴 講：無料 参加者：43 名

・土人形絵付け体験

日 時：3月25日（土）、4月29日（土）

いずれも午前10時～正午、午後1時～3時

講 師：禰宜田 徹氏（三河大浜土人形師）

会 場：第3民芸館

参加者：25名

・土人形絵付け実演

日 時：3月25日（土）、4月29日（土）

いずれも午前10時～正午、午後1時～3時

実 演：禰宜田 徹氏（三河大浜土人形師）

会 場：第3民芸館 *時間中の見学は自由

アンケート

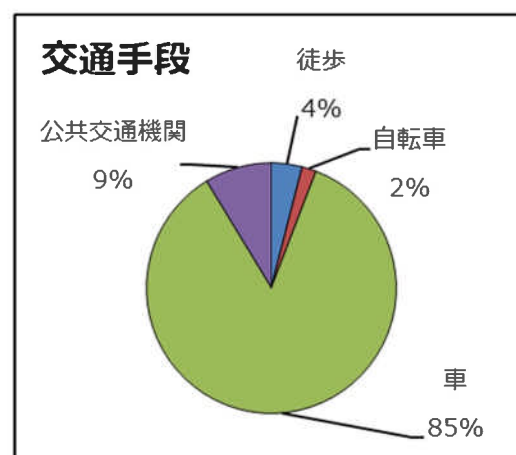
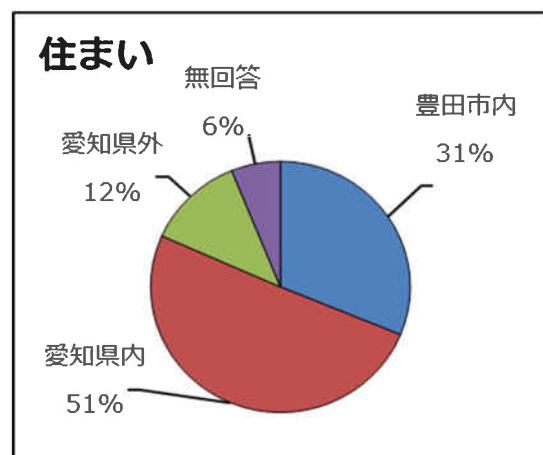
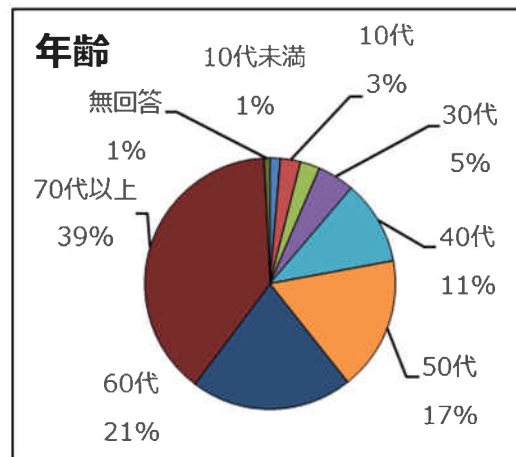
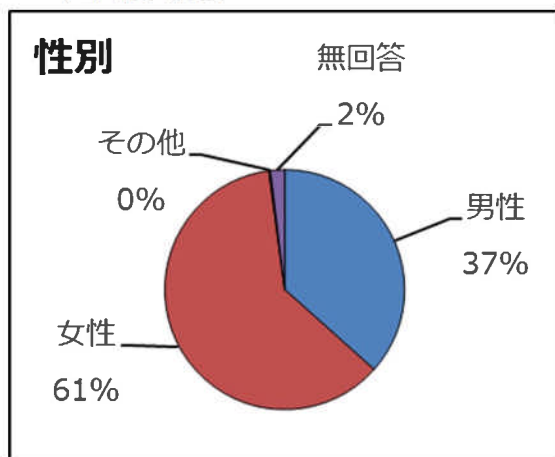
調査日：1月21日～5月7日

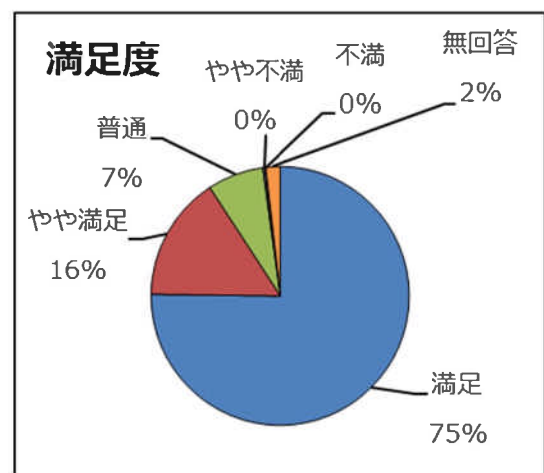
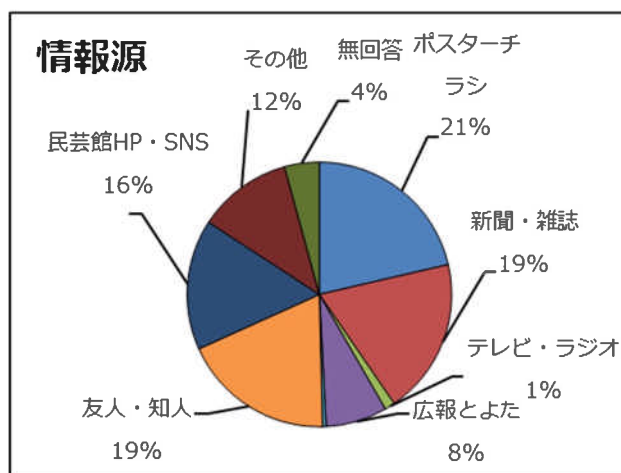
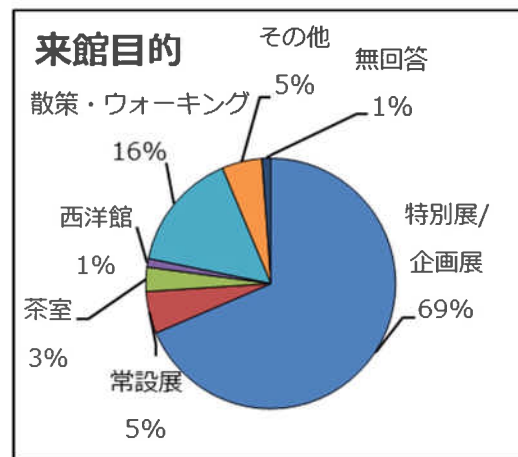
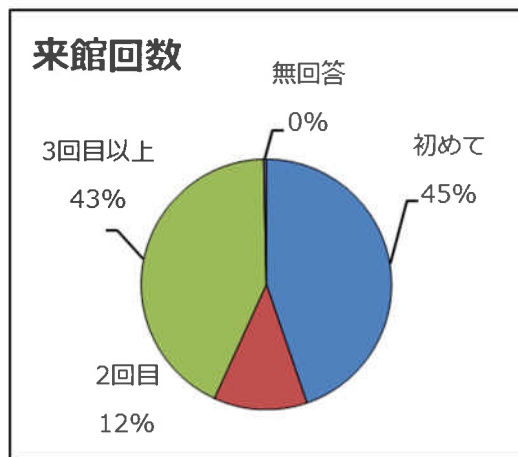
調査場所：第1、第2民芸館各エントランスにて紙アンケート記載機を設置し、記入

集計枚数：1467枚

【アンケート結果より】

- ・小さい変化ではあるが①県外の来館者が少しずつ戻ってきている ②新聞・雑誌が情報源の人が増えている ③初来館が増えてきている という傾向を見て取ることができる。コロナ禍が明けたこと、中日新聞など大手メディアとの共催がこうした傾向の理由と思われる。





ご意見等（抜粋）

- ・折角集めて展示されたのなら各々の特徴（これは難しそう）作られた時代（これも難しそう）が判る範囲で書かれていれば更に面白かったと思います（今回は難しそうにも思いますが）。
（70 歳以上男性）
- ・たくさんの土人形が見られてよかったです。土人形の説明が少しあるとよかったです。
（40 歳代女性）
- ・人形がとても状態良く保存されていてうれしかったです。美しい人形に会えてよい時間でした。（60 歳代女性）
- ・他の民芸館とくらべて展示物が多すぎるように感じました。見づらいです。応援しています。
（30 歳代女性）
- ・人形が買いたいなと思いました。張子や土人形を作っている映像が見たかったです。また実際に作ってみたいです。（20 歳代女性）

第 105 回企画展 柳宗悦と愛知の民芸

令和 5 年 7 月 1 日（土）～9 月 24 日（日）

80 日間（会場：第 1、第 2 民芸館）

観覧者数 6,823 人（1 日平均 85 人）

【展示概要】

民藝運動の創始者・柳宗悦（1889-1961）は、昭和 5 年（1930）に瀬戸の石皿を調査、昭和 12 年に本郷村（現・東栄町）のざげち（切り紙）調査のために愛知県を訪れた。柳はこうした調査を民藝の同人たちと全国にわたって行っており、著書『手仕事の日本』

（昭和 23 年発行）では、昭和 15 年頃の日本の手仕事の現状を書き記し、日本固有の手仕事による美しさと、それを継承していく大切さを啓蒙した。

また、柳は昭和 31 年に名古屋市市営薬師で初めて円空仏を目にし、『民藝』81 号（昭和 34 年）では円空仏の特集を組み、「この稀有の彫像に全く驚愕し、圧倒される程の感銘をうけた」と述べている。

今回の展覧会では『手仕事の日本』で紹介された瀬戸・犬山・常滑のやきもの、扶桑の端折傘、有松鳴海の絞り染め、知多木綿、三河木綿、足助紙、菟足神社の風車、花祭のざげちといった愛知県の手仕事と、円空仏や円空の書を館蔵品より紹介した。



観覧料：無料

主 催：豊田市・豊田市民芸館

出品点数：約 200 点

印刷物：ポスター B2 版カラー：500 部、チラシ A4 版両面カラー：11,000 部
リーフレット A3、2 つ折り A4 仕上げ 4 C×4 C：2,000 部

関連企画：

・イメージ和菓子販売

日時：7 月 15 日（土） / 9 月 9 日（土）

一服 450 円、各日 40 個限定（完売）

協力：東屋製菓舗

・ギャラリートーク（展示解説）

日時：8 月 26 日（土）午後 2 時－ 30 分程度

定員：先着 15 名 参加者：13 名

会場：第 1 民芸館

聴講無料

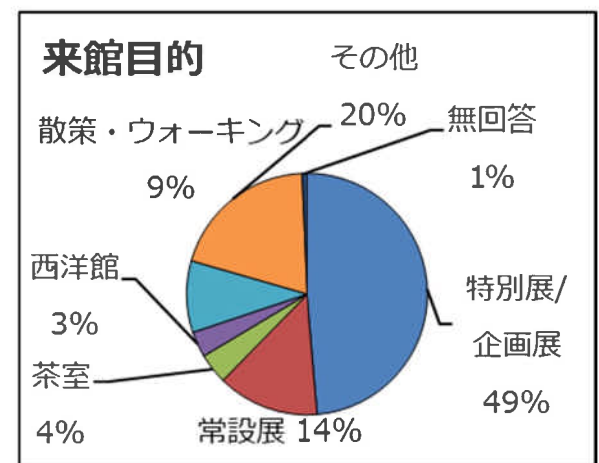
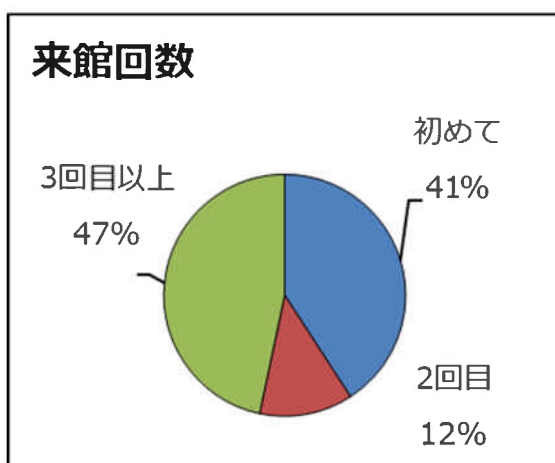
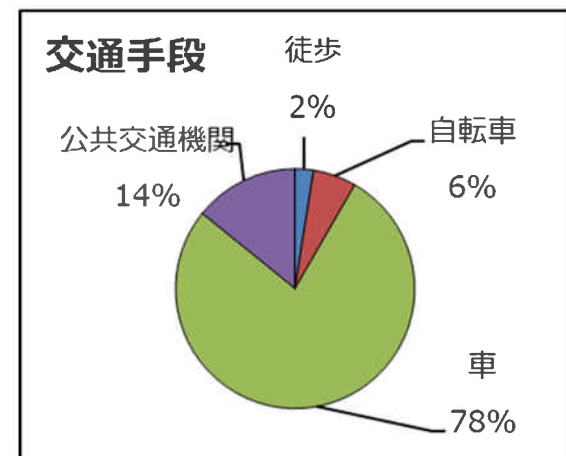
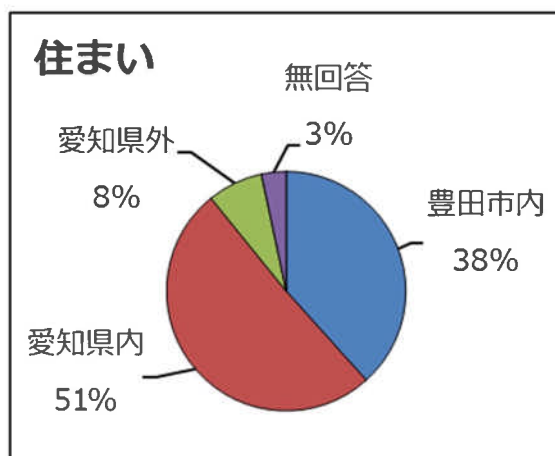
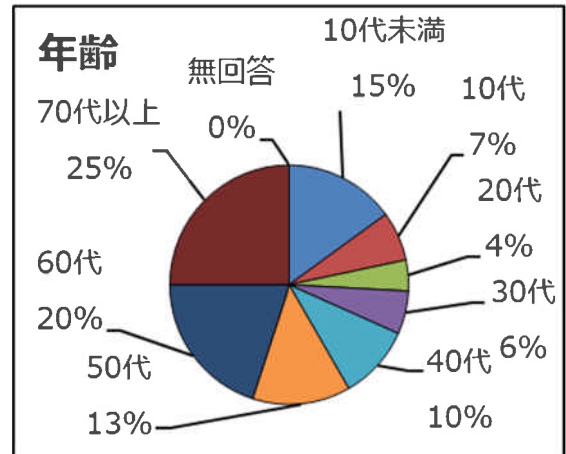
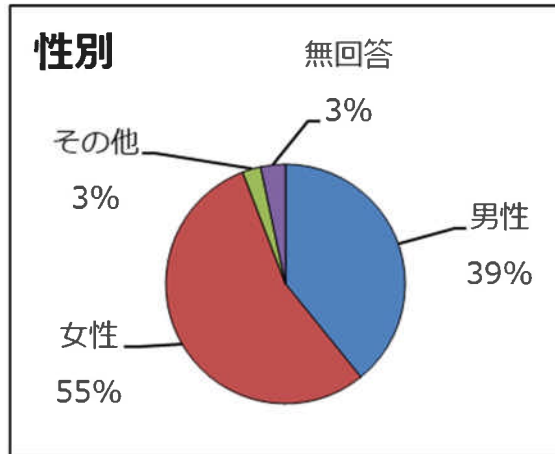
アンケート

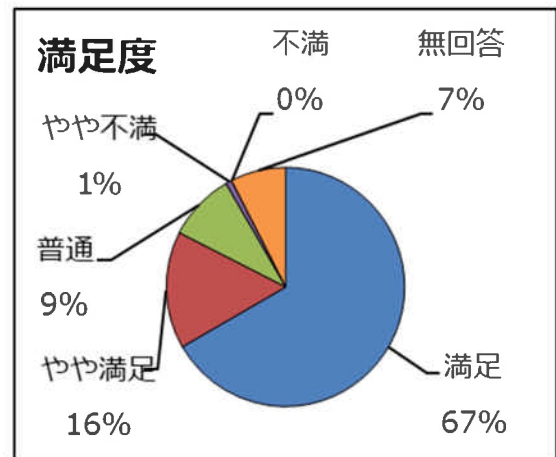
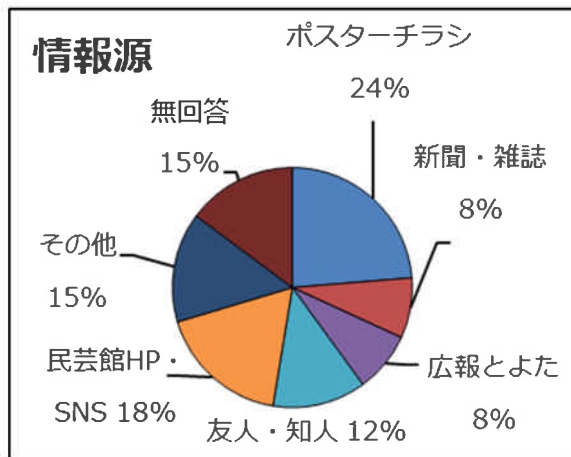
調査日：7 月 1 日～9 月 24 日

調査場所：第 1、第 2 民芸館各エントランスにて紙アンケート記載機を設置し、記入
集計枚数：120 枚

【アンケート結果より】

- ・会期に夏休みが入っているため、前回の特別展よりも若い層の入館者割合が高くなっている。
- ・同じ理由で、来館目的に「散策・ウォーキング」や「その他」（スタンプラリーや体験講座等）の割合が多くなっている。





ご意見等（抜粋）

- ・ 広々とした展示場の建物そのものが大変すばらしいです。この空間民芸館が末永く残ってほしい。豊田市内だけでなく県内全国から民芸を愛する人々が訪れてもらえますように（60代女性）
- ・ 焼き物の年代が明記されていると良いと思いました（60代）
- ・ 受付御当番の方は展示物に対し、一定の（最小限でも）知識を持って質問には応えて戴きたい（70歳以上男性）
- ・ 美しい展示、建物、園内でした 無料なんて勿体ないです（60代男性）
- ・ ギャラリートークの内容が、初心者でも、分かりやすく、参加された皆様の様子から理解度を考えて説明して下さったのでとても楽しめました。ありがとうございました。展示されている作品の解説や時代表（年表）などを大きな文字で展示されるとよいとおもいました。（小さい文字だと読まない方が多いです）（20代女性）

豊田市民芸館開館 40 周年記念特別展 「沖縄の美」展

令和 5 年 10 月 7 日（土）～令和 5 年 12 月 3 日（日）

51 日間（会場：第 1、第 2 民芸館）

観覧者数 2,941 人（1 日平均 58 人）

【展示概要】

日本本土や中国、朝鮮、東南アジアの国々の影響を受けながら琉球王国として独自の文化を形成してきた沖縄。その地を日本民藝館創設者の柳宗悦（1889-1961）が初めて訪問したのは 1938 年のことである。「私たちのように伝統的な工芸品を求めて各地を歩いている者には、琉球の存在は誠に奇跡のようなものであった」と柳は絶賛し、自然の豊かさに感嘆し、工芸調査や蒐集を精力的に行い、展覧会や雑誌『工藝』などを通してその成果と魅力を広く紹介してきた。

本展は令和 4 年度に本土復帰 50 年を記念して日本民藝館で開催された特別展を再構成したものである。型紙を使って文様を染める華やかな紅型の衣装や手描きで糊引きするうちくい（風呂敷）、芭蕉や芋麻、絹、木綿などを材に地域ごとに特色のある縞や緋の織物、技法も形態も多様な陶器や漆器とともに、柳らの訪問時に撮影された戦前の沖縄を紹介する写真もあわせて展覧し、改めて沖縄が「美の宝庫」であることを紹介した。



観覧料：一般 500 円／高大生 300 円 中学生以下と市内在住の 70 歳以上、豊田市内在住・在学の高校生（ただし、在学していなくても 18 歳以下）、障がい者は無料（要証明）

主 催：豊田市・豊田市民芸館

共 催：中日新聞社

特別協力：公益財団法人日本民藝館

出品点数：約 150 点

印刷物：ポスター B2 版カラー：800 部、チラシ A4 版両面カラー：22,000 部

リーフレット A3、2 つ折り A4 仕上げ 4 C×4 C：3,500 部

入場券：9,000 部

同時開催：「ちゅらさん沖縄」展（館蔵コレクションより）

- ・会場：民芸館ギャラリー（第 3 民芸館）
- ・会期：令和 5 年 9 月 2 日（土）～11 月 26 日（日）
- ・観覧料：無料

関連企画：

- ・記念講演会「柳宗悦と沖縄」

日時：11 月 3 日（金・祝）午後 2 時～3 時半

講師：杉山亨司（日本民藝館学芸部長）

会場：第 3 民芸館

聴講：無料（ただし会期中の観覧券の提示が必要）

参加者：58 名

・琉球獅子舞・エイサー演舞

日時：11月25日(土) 午後2時開演

出演：琉球國祭り太鼓 東海支部（琉球獅子舞・エイサー）

会場：第3民芸館前芝生広場

観覧：無料

観覧者：200人

・特製和菓子販売

茶室勘桜亭での呈茶に沖縄をイメージしたお菓子を販売。

日時：10月21日(土)、12月2日(土)

一服450円、各日40個限定(完売)

協力：東屋製菓舗

アンケート

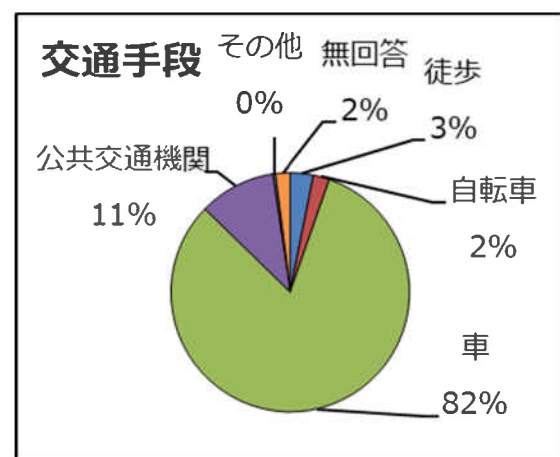
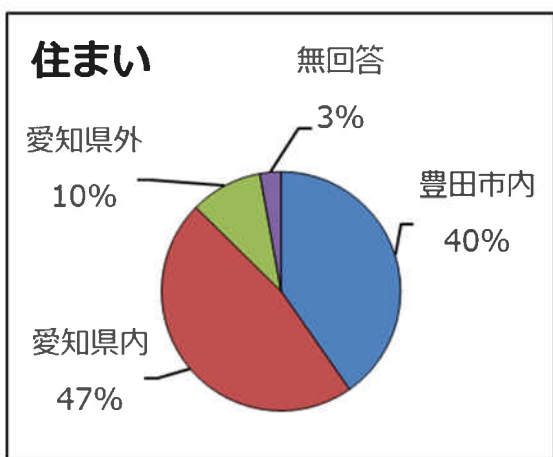
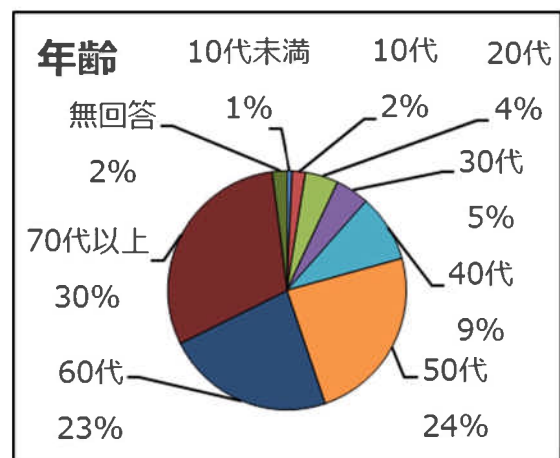
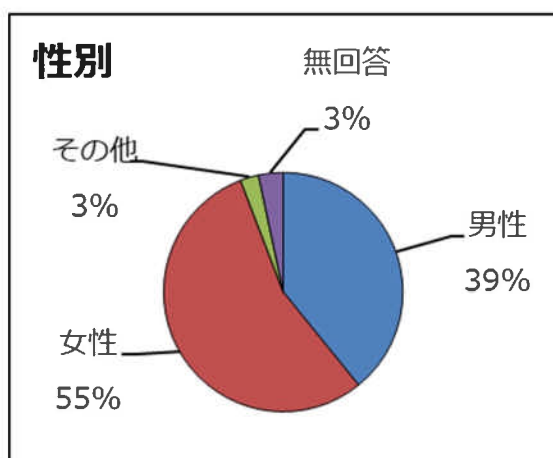
調査日：10月7日～12月3日

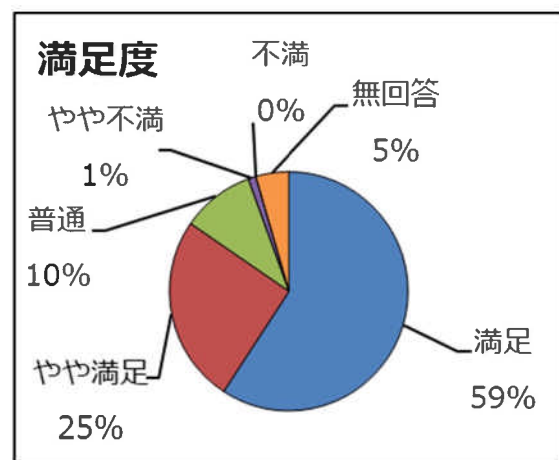
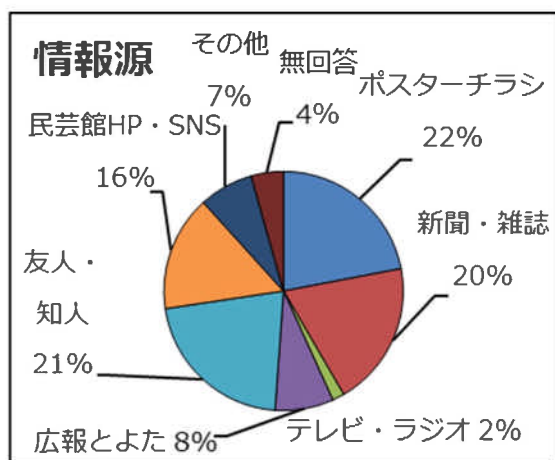
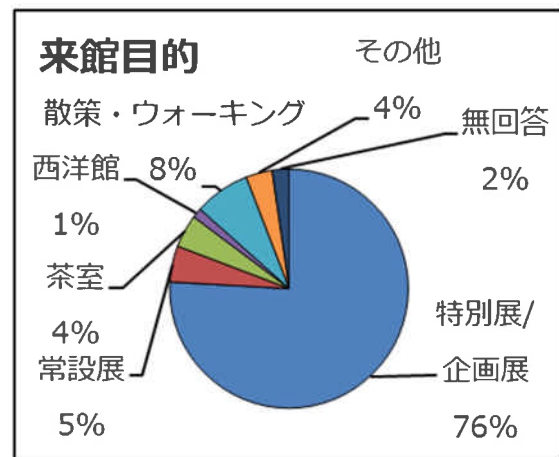
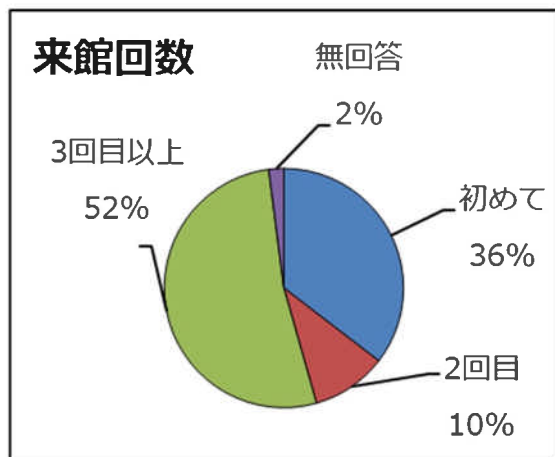
調査場所：第1、第2民芸館各エントランスにて紙アンケート記載機を設置し、記入

集計枚数：1,224枚

【アンケート結果より】

- ・会期に紅葉の見ごろの時期が入っているが、来館目的は「散策・ウォーキング」の割合は少なく、特別展を見るために足を運んだ人が多くなっている。
- ・中日新聞社と共催したため、情報源に「新聞・雑誌」の割合が多くなっている。





ご意見等（抜粋）

- ・とても素晴らしいのでゆっくり見せてもらいました 出来れば着物の絵の由来や、器の形がどうしてこうなったのか朱色はどこから来たとか…その物の歴史とかが知りたかったです。また地図があってどの町で多く作られていたのかも知りたかったです（70 歳以上男性）
- ・展示品について制作過程の解説がない 材質の違い、衣裳の形の違いなど染め、織りについても詳しい説明が欲しかった。展示目録もなく残念（50 代男性）
- ・特別展なのに展示の説明が少なめかなと思いました。カタログもあれば欲しかったです。（全展示解説付き）戦前の写真をくいいるように観ました。紅型の方も。沖縄は、ほぼ戦争で燃えてしまったので貴重なものを見ることができました。たまたまお茶も楽しめ良かったです（40 代その他）
- ・お衣裳をどう装うのかがわからないので、写真でもあるいは人体に着せてもいいと思うので説明があるといい 焼物、籠いずれもどう使うのかがわかると嬉しいですが… 企画に関しては充分満足でした（70 歳以上女性）

豊田市民芸館開館 40 周年記念・河井寛次郎記念館開館 50 周年記念

「河井寛次郎展 - 寛次郎の魅力は何ですか」

令和 5 年 12 月 16 日（土）～3 月 10 日（日）

69 日間（会場：第 1、第 2 民芸館）

観覧者数 6,434 人（1 日平均 93 人）

【展示概要】

日本を代表する陶芸家・河井寛次郎（1890-1966）は、柳宗悦、濱田庄司とともに日用雑器の美へ関心を深め、「民藝」の新語を作り、民藝運動を推進した。本展では当館開館 40 周年事業の一環として、開館 50 周年を迎える京都の河井寛次郎記念館の所蔵品より、陶芸家・河井寛次郎の創作活動の全貌を紹介した。

河井の作品は、東洋陶磁の技法を駆使した初期作品、民藝運動を牽引する中での実用を意識した中期作品、独創的な造形美へと変化した後期作品に大別されるが、その魅力は作品の技巧性・独創性に加え、彼の人間性と彼が伝える言葉の力にある。今回は、河井寛次郎の陶業の仕事や昭和・戦後期に作られた木彫像や木彫面、真鍮のキセル、河井の人間性・精神性を表現した書などを展観した。

関連企画として「中村裕太が手さぐる河井寛次郎」展を開催。美術家の中村裕太（1983-）が河井の仕事にみられる造形感覚をその暮らしぶりからひも解いていく展示を行った。



観覧料：一般 500 円／高大生 300 円 中学生以下と市内在住の 70 歳以上、豊田市内在住・在学の高校生（ただし、在学していなくても 18 歳以下）、障がい者は無料（要証明）

主 催：豊田市・豊田市民芸館

共 催：中日新聞社

出品協力：河井寛次郎記念館

出品点数：約 200 点

印刷物：ポスター B2 版カラー：800 部 チラシ A4 版両面カラー：20,000 部

入場券 8,000 部 図録 500 部

販売品：河井寛次郎記念館・中村裕太氏・東方出版委託品、図録（300 冊完売）

関連企画：

・記念講演会「祖父・河井寛次郎」

日時：1 月 20 日（土）午後 2 時～3 時半

講師：鷺珠江氏（河井寛次郎記念館学芸員）

会場：第 3 民芸館

聴講：無料（ただし会期中の観覧券の提示が必要）

参加者：60 人

・河井寛次郎の器でお茶を楽しむ

日時：1 月 21 日（日）午前 10 時～11 時半／午後 1 時半～3 時

講師：鷺珠江氏（河井寛次郎記念館学芸員）

会場：茶室勘桜亭

参加費：2,500 円 参加者：20 人

・ギャラリートーク

日時：2月17日（土）午後2時－

聴講：無料（ただし当日の観覧券の提示が必要）

参加者：72人

・トークショー「河井寛次郎に聴き、柳宗悦に視る」

日時：12月16日（土）午後2時－3時半

講師：軸原ヨウスケ氏（デザイナー）、中村裕太氏（出品作家）

会場：第3民芸館

聴講：無料（ただし当日の観覧券の提示が必要）

参加者：21人

・ワークショップ「眼で聴き、耳で視る」

日時：12月16日（土）午前10時半－12時／3月2日（土）午後2時－3時半

講師：中村裕太氏（出品作家）

会場：旧館長室（第1民芸館）

聴講：無料（ただし会期中の観覧券の提示が必要）

参加者：17人

アンケート

調査日：12月16日～3月10日

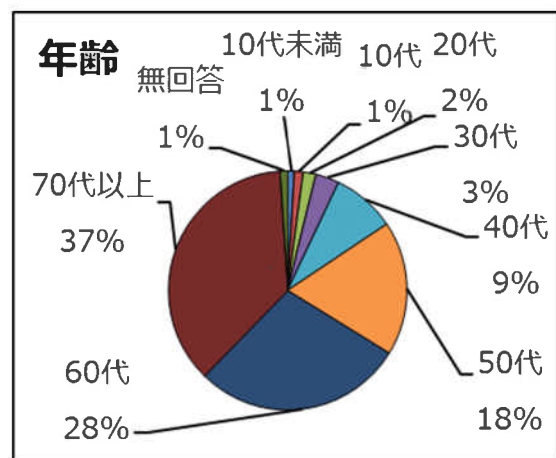
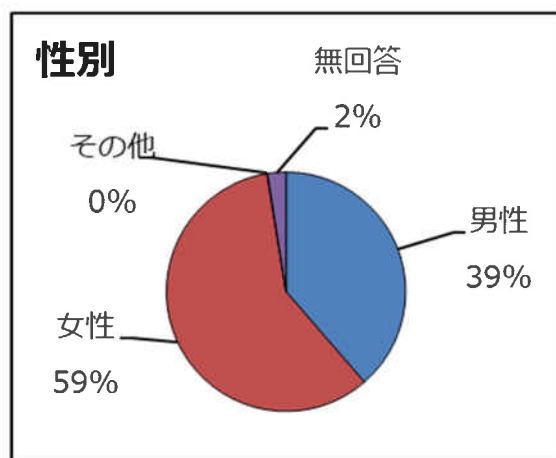
調査場所：第1、第2民芸館各エントランスにて紙アンケート記載機を設置し、記入

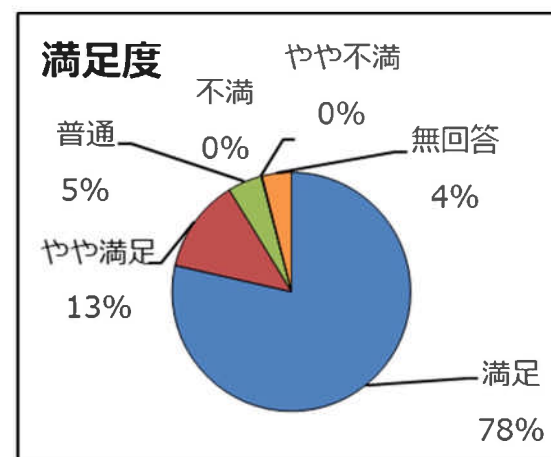
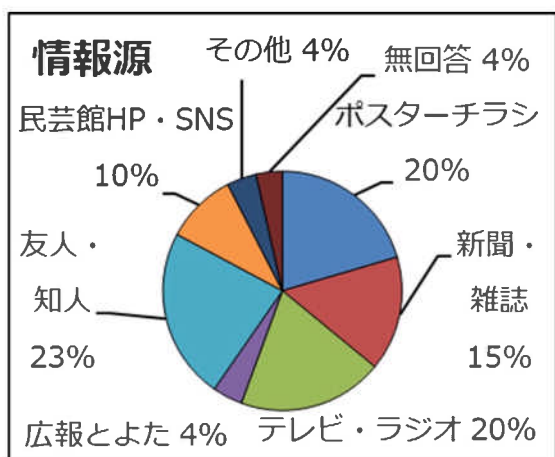
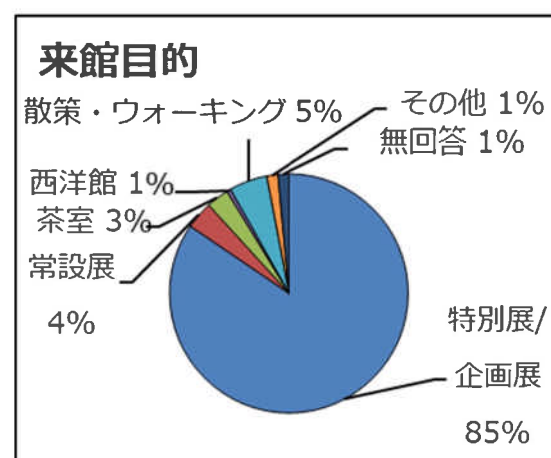
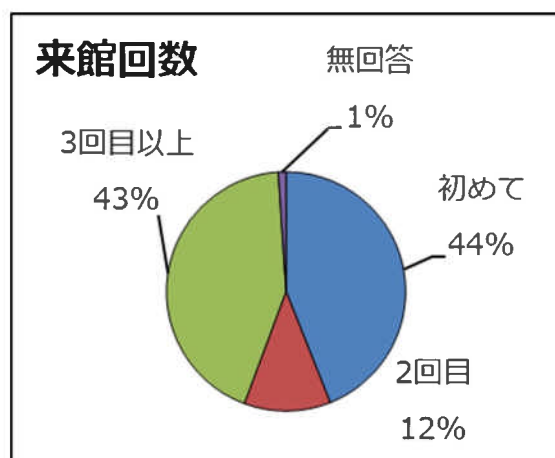
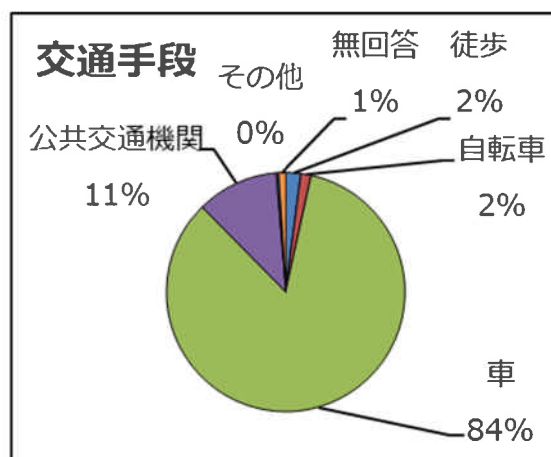
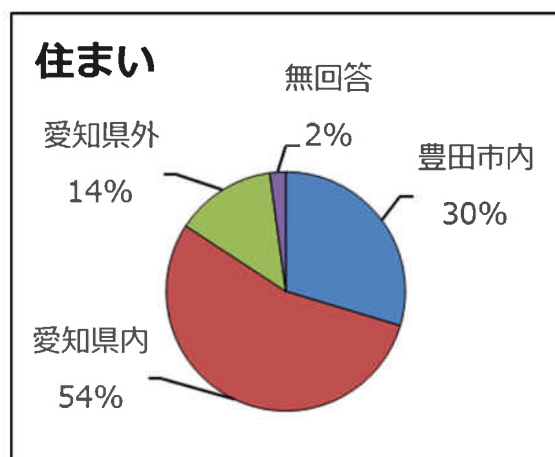
集計枚数：2,501枚

初回放送日：2024年1月28日

【アンケート結果より】

- ・60歳以上が65%と前回の沖縄展の53%から更に上昇した。
- ・NHKのテレビ番組「日曜美術館」（初回放送1月28日）にて河井寛次郎が取り上げられ、番組の最後に当展覧会も紹介された。その影響もあってか連日多くの方が来館し、アンケート結果にも「情報源」において「テレビ・ラジオ」が20%と如実に表れている。（前回特別展では2%）





ご意見等（抜粋）

- ・ 作品の背景がもう少し分かれば良いと思いました。全体的には楽しめました。（50代男性）
- ・ 1.説明文の字をもう少し大きくして下さい。2.立ったまま説明文を読めるよう目の高さに展示して同時に展示物の位置が分かるように提示して下さい（70歳以上男性）
- ・ 館長室のしつらえがとても興味深くて良かったです。耳から入ってくる解説と文字展示、そして作品の組み合わせがザンシンで改めてこういうインパクトの与え方も大変良いと思いました。（60代男性）
- ・ 作品の名前が読めない、全てにカナを振って欲しい。文字も名札も小さすぎる。年寄りでも読めるように！（70歳以上男性）
- ・ 予備意識のない人でも楽しめる様、鑑賞のアドバイスをそえて頂けると尚良いと思います。（50代男性）

民芸館ギャラリー（第3民芸館）での展示

A 展示室

民芸館の収蔵品の中から季節感のあるものなどを定期的に展示（観覧無料）

令和5年度展示実績

展示期間	展示内容
4月12日～5月23日	絞り染めのこいのぼり、鯉の模様の夜具地、大浜土人形（武者人形）を展示
5月24日～12月15日	大津絵3点、徳利4点を展示
12月16日～3月10日	しめ縄や河井寛次郎デザインの竹製椅子など11点を展示
2月2日～4月9日	土人形の内裏雛10体を展示



夜具地と大浜土人形

B 展示室

民芸館主催の各種講座で受講者が作成した作品を展示する民芸館講座作品展や、第1・第2民芸館での展覧会に関連した収蔵品を中心とした企画展示、その年の干支にまつわる郷土玩具展などを実施。（観覧無料）

令和5年度開催実績

会 期	展覧会名	概要
2月21日～5月21日	令和4年度民芸館講座作品展	令和4年度に民芸館主催の各種講座で受講者が作った作品を展示
5月27日～7月30日	バーナード・リーチの訪れた窯	イギリスの陶芸家バーナード・リーチの作品や、リーチが指導した日本各地の窯場において制作された陶器など約50点を紹介
8月6日～8月27日	みんなの作品展	令和5年7月までの体験講座で絵付けされた、そば猪口約80点を展示
9月2日～11月26日	ちゅらさん沖縄展	特別展「沖縄の美」に合わせて実施 民芸館が所蔵する沖縄の工芸品の中から、焼物、染物、織物、郷土玩具など約50点を紹介
12月2日～2月4日	郷土玩具 干支と辰	令和6年の干支である「辰」をモチーフにした張子や土人形、土鈴など全国の郷土玩具約100点を展示
2月20日～5月19日	令和5年度民芸館講座作品展	令和4年度に民芸館主催の各種講座で受講者が作った作品を展示

【本多記念民芸の森】

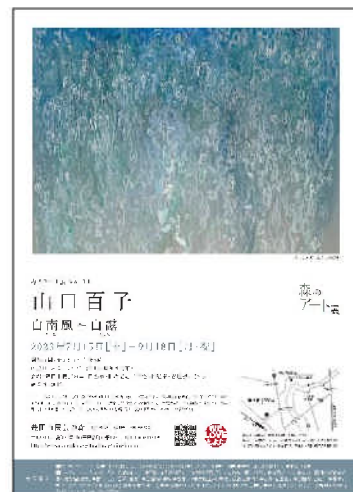
森のアート展 Vol.18「山口百子・絵画展 ^{しら は え はくろ} 白南風～白露」

令和5年7月15日(土)～9月18日(月・祝)

58日間

【展示概要】

豊田市本多記念民芸の森では、市内外の芸術家の作品を森の屋内外に展示することで、手仕事の素晴らしさを感じ、新たな発見や交流、創造の場となるよう「森のアート展」を開催。本展示は、その第18回目として初めて公募で作家を募集し、日本画家であり、美術館や学校で日本画をワークショップで広めている山口百子氏の日本画の伝統技術を用いた衝立・掛け軸等を展示した。



観覧料：無料

主催：豊田市・豊田市民芸の森

出品点数：約 25 点

観覧者数：1,561 人

印刷物：チラシA4 版両面カラー：2,500 部

関連企画：

・ギャラリートーク

日時：7月30日(日)、8月6日(日)、9月2日(土) いずれも午前10時～

参加者：3回合計：16人

森のアート展 Vol.19「山田和俊 寄贈記念展」

令和5年10月7日(土)～12月17日(日)

63日間

【展示概要】

19回目の森のアート展では、豊田市在住の陶芸家・山田和俊氏(1933年～)の陶芸作品を紹介した。山田氏は猿投山麓の良質の粘土を使用して、この土地独特の焼味をもった焼物を手がけており、1976年には、豊田工芸協会を設立。以来、数多くの展覧会を開催するとともに工芸の発展と文化振興に力を注いできた。

本展は、山田氏が令和4年度に15点の作品を豊田市民芸館に寄贈されたことを記念して開催した。



観覧料：無料

主催：豊田市・豊田市民芸の森

出品点数：約 25 点

観覧者数：761 人

印刷物：チラシA4 版両面カラー：2,500 部

関連企画：

・記念講演会「山田和俊さんの陶芸の道」

日時：10月28日(土) 11時～11時40分

講師：八木哲也(豊田工芸協会顧問、衆議院議員)氏

参加者：30人

森のアート展 Vol.20「水中ごっこ 川澄綾子展」

令和6年1月20日(土)～ 3月17日(日)

51日間

【展示概要】

20回目の森のアート展では、公募により選考された豊田市出身の工芸作家・川澄綾子氏の和紙・漆作品を展示。

タイトルの「水中ごっこ」という、作家の幼い頃の（妄想の遊び＝非日常）を和紙のインスタレーション（置間、広縁窓ガラスに設置）で表現し、和紙の作品には触れてはいけないもの、ではなく近づいて、体験し、幼い時の遊びを体感してもらう展示などを展開した。



観覧料：無料

主催：豊田市・豊田市民芸の森

出品点数：約 44 点

観覧者数：696 人

印刷物：チラシA4 版両面カラー：2,500 部

関連企画：

・ギャラリートーク

日時：1月21日（日）午後1時～

参加者：6人

3 普及推進事業

(1) 講座開催事業

【民芸館】

民芸館講座実績（累計）

・陶芸講座

穴窯講座	3回	36人	〔59〕
ガス窯講座	36回	439人	〔436〕

*〔 〕は令和4年度人数

・挙母木綿講座

初級	18回	142人	〔136〕
中級	34回	176人	〔200〕
上級	38回	269人	〔225〕

・染織講座

初級	15回	143人	〔159〕
上級	15回	138人	〔153〕

・絞り染め・藍染め講座

化学染料染め	10回	121人	〔187〕
藍染め	10回	104人	〔158〕

・ガラス工芸講座

・民芸体験・体験講座

・団体利用

合 計		3,115人	〔3,227〕
-----	--	--------	---------

【本多記念民芸の森】

体験講座

・「ミニ金屏風に小原和紙で貼り絵をしよう」

小原和紙やアクリル絵の具を使用してオリジナルミニ金屏風を作成（1個 800円）

体験者：10人

体験コーナー実績

*〔 〕は令和4年度実績

・期間・数量限定体験（有料）

貼り絵でミニ鯉のぼりを作ろう（無料）	体験数 61個	〔60〕
竹と和紙で作るミニランプシェード～新緑	体験数 26個	〔一〕
ガラス風鈴に和紙で絵付けをしよう	体験数 116個	〔184〕
紅葉・竹と和紙で作るミニランプシェード	体験数 13個	〔37〕
森の木の実でリース作り	体験数 30個	〔57〕
森の松ぼっくりと小原和紙でひな人形を作ろう	体験数 3個	〔7〕
竹と和紙で作る春のミニランプシェード	体験数 15個	〔34〕

・通年実施

季節の貼り絵タペストリー（有料）	体験数 159個	〔150〕
貼り絵アート（無料）	体験数 1個	〔3〕

合 計		424個	〔532〕
-----	--	------	-------

(2) イベント・地域連携事業

【民芸館・本多記念民芸の森合同】

- ・平戸橋桜まつり 2023（民俗芸能大会同時開催） 4月1日
来場者：6,500人（民芸館：714人 民芸の森：681人）
- ・新緑ウィーク 4月22日（土）～ 5月7日（日）
ウォーキングマップを持って各施設を巡りスタンプを集める。（他ウィークも同様）
参加者：34人（民芸館：8人 民芸の森：14人 いこいの広場：12人）
- ・夏の民芸館・民芸の森クイズラリー2023 7月15日～8月27日
クイズを通じて幅広い年齢層に民芸の森と民芸館を周知する
参加者：461人（民芸館：292人 民芸の森：169人）
- ・とよたの歴史 なぞ解きラリー【文化財課合同事業】 7月21日～9月24日
市内の文化施設の存在を広く知ってもらおうと共に、博物館準備課と文化財課が
所管する8施設連携しスタンプラリーを実施。
参加者：90人（5館賞）民芸館：42人 民芸の森：48人）
- ・紅葉ウィーク 11月11日～ 11月26日
参加者：38人（民芸館：17人 民芸の森：11人 いこいの広場：10人）
- ・勘八峡紅葉ウォーキング 11月18日（土）
「勘八峡・秋色の絶景ポイントと史跡をめぐる」をテーマに、勘八峡の絶景ポイントから観る紅葉とコース内の史跡を巡るスタンプラリー。
（協力：平戸橋一区自治区、中部電力、杜若高校）
参加者：109人

【民芸館】

- ・愛知やきものヒストリー2023 7月15日～ 9月10日
県内19の資料館や博物館などとの共同企画。毎年テーマに合わせた展示とシールラリーを実施。
令和5年のテーマは「家康の時代のやきもの」
参加者：42人



【本多記念民芸の森】

- ・初夏、森の手ざわり 2023 5月21日
NPO 法人民芸の森倶楽部と共働（企画運営を委託）で、開催する季節ごとの市民交流イベント。幅広い市民に本多静雄氏や民芸について、見て知り体験する機会を設けるもの。狂言舞台での各種演目、飲食、民芸品の出店等実施。
来場者：500人
- ・観月会 2023 10月28日
上記、森の手ざわりと同様のイベント。毎年10月の満月に近い日程に実施。
来場者：600人

・市民文化講座「青佳談義」 2月17日

NPO 法人民芸の森倶楽部と共働で、本多静雄氏ゆかりの方々や地域の方から話を聞き、民芸や地域の歴史を学ぶ講座。12回目。

参加者：37人

(3) 学校団体等の受け入れ

【民芸館】

日にち	団体名等	内容	人数
6月1日	杜若高校	オンライン授業	6
7月26日	逢妻中美術部	ガス窯作陶（出張講座）	23
7月29日	平井子ども会	絞り染め	33
8月23日	愛のさと 梅坪	絞り染め	9
8月25日	愛知シュタイナー学園	施設見学	9
9月6日	豊田東高校 交換留学生	絞り染め・見学	33
9月30日	梅坪台子ども茶道教室	呈茶	90
10月5日	足助中学校	そば猪口絵付	9
10月19日	若林西小学校	染織（出張講座）	60
12月13日	中山松元幼稚園	ガス窯作陶	53
合 計			325

【本多記念民芸の森】

日にち	団体名等	内容	人数
9月21日	猿投台中学校 1年生	施設インタビュー	10
9月27日	青木小学校 2年生	まち探検	81
10月10日	青木小学校 2年生	まち探検	72
10月26日	青木幼稚園 年中	遠足、タペストリー作り	9
1月16日	青木小学校 3年生	施設に関する聞き取り（手紙・電話）	—
合 計			172

(4) マスコミ等掲載実績

【民芸館】

テレビ（ひまわりネットワーク含む）	16 回	新聞（広告欄含む）	32 回
雑誌（フリーペーパー含む）	49 回	WEB	35 回
ラジオ（FMとよた）	4 回		

【本多記念民芸の森】

テレビ（ひまわりネットワーク）	7 回	新聞（地域紙）	4 回
雑誌（フリーペーパー含む）	14 回	WEB	1 回
ラジオ（FMとよた）	1 回		

(5) 刊行物等発行

【民芸館】

- ・機関紙「民芸館だより」第 35 号（8 月）・第 36 号（3 月）
- ・図録「河井寛次郎展－寛次郎の魅力は何ですか－」 B5 変形版 95 頁

【本多記念民芸の森】

- ・機関紙 「森暦」
夏号 No.29（6 月 15 日）、秋号 No.30（9 月 15 日）、冬号 No.31（12 月 15 日）
※ 春号（3 月 15 日）は指定管理者制度への移行のため発行見送り

4 資料収集・管理事業

(1) 購入資料

展示資料として日本民藝館展入選作品を 3 点購入

	作品名	作者・購入元／年代等	素材・寸法等	購入価格
1	格子着尺	青田美穂（愛知県）／ 日本民藝館展 入選	絹／玉葱、 39×1470cm	418,000 円
2	樺細工散し皮縦貼茶筒	米沢研吾（秋田県）／ 日本民藝館展 入選	桜皮、経木、朴	71,500 円
3	紅型風呂敷	具志七美（沖縄県）／ 日本民藝館展 入選	麻／顔料、 121×120cm	41,800 円
合 計				531,300 円



1 格子着尺



2 樺細工散し皮縦貼茶筒



3 紅型風呂敷

(2) 寄贈資料

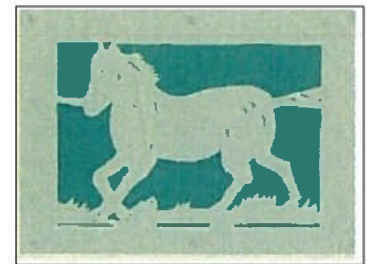
	寄贈品	寄贈者	点数
1	瀬戸大皿など	岡崎市 個人	14 点
2	和紙	豊田市 個人	506 点 (枚)
3	備前焼大甕	岡山県 個人	1 点
4	行灯皿、アイヌ工芸品など (高松静男コレクション)	名古屋市 個人	319 点
5	ざげち	豊川市 個人	25 点
6	菅原 謙 作 傘立	沖縄県 個人	1 点
7	とんぼ玉プロトタイプ	春日井市 個人	78 点
合 計			944 点



1 瀬戸大皿



4 行灯皿



5 ざげち

(3) 収蔵資料数

12,264 件 59,003 点 (令和 6 年 3 月末時点)

資料収蔵一覧

種別 (素材別)	土	木	紙	布	鉄	ガラス	竹	石	書籍	絵画	他	合計
件数	5,931	1,811	924	1,274	474	366	184	56	73	253	918	12,264
点数	21,417	14,217	5,935	2,262	749	757	337	120	901	701	11,607	59,003

5 施設維持管理事業

(1) 修繕事業

【民芸館】

民芸館 40 周年にあたり以下の大規模修繕などを実施

- ・ 第 1 ・ 2 民芸館壁紙床材および展示台下地張り替え修繕
- ・ 民芸館屋外サイン看板修繕

【本多記念民芸の森】

差し茅工法による茶室「松近亭」の茅葺屋根の修繕などを実施

- ・ 民芸の森松近亭屋根修繕
- ・ 民芸の森目隠しフェンス修繕



修繕されたサイン看板